

第3回大雪山忠別湖トライアスロンひがしかわ 熱戦！ トライアスリートの夏

盛夏のダム湖に全国各地から約400人のトライアスリートが集いました。8月9日、「第3回大雪山忠別湖トライアスロン」ひがしかわ大会が忠別ダム湖畔コースで開かれ、夏の目差しに恵まれた会場に声援があふれました。

午前10時、晴れ。水温セ氏22度。13人の招待選手を先頭に、16歳から73歳まで、成人の部392人が一斉に湖面めがけてダッシュしました。

コースは各種公式大会標準のシヨートコース。スイム1.5キロ、自転車40キロ、ランニング10キロの3種目で総合タイムを競い、第1回大会優勝の吉越慎吾選手(29) 愛知県、三好スイミングアカデミーが、昨年の大会記録を5秒更新して1時間59分55秒で優勝。同大会2位だった工藤駿選手(18) 東京都、チームケンズが準優勝しました。

今大会最年少の久保桢勇賞選手(16) 千歳市、ヌウエツトが一般の部で出場、17歳以上の学生選手権出場組を抑えてみごと総合3位入賞しました。

女子トップは、昨年町内でミニ合宿を行うなどコースを知り尽くしている沢田愛里選手(29) 札幌、JR北海

道Ⅱが2時間13分54秒で優勝しました。ジュニアの部(中学生以下)には約80人が出場しました。

千歳から参加の久保桢君が最年少16歳で3位の快走



一般の部優勝の最年少選手、久保桢君(中央)とコースレコード更新1位の吉越さん(左)、2位工藤さん(右)

「選手権にエントリーするつもりだったんだけど、今年から出場年齢が17歳からに変更になってしまっ」と一般男性の部でスイム1位通過とい

う力強い泳ぎを見せました。

今季は、既に幕張新都心トライアスロン大会のスプリントトライアスロン選手権(6月、千葉市)で10位、長良川日本ジュニアトライアスロン選手権(8月2日、海津市)で7位入賞と、大会ごとに着々と成長をみせています。「バイクの上りはつらかったけれど、ランコースは走りやすかった」。

ゴール後、両大会とともに参加して上位入賞した工藤駿選手、今大会優勝した吉越選手3人でエールを交歓しました。

「うまく走れた！」と自己新の記録で笑顔



数少ない東川町出場者でトップゴール、小川さん

町内から2年ぶり参加の小川征一さん(41) ひだまりの里は「前回よりうまく走れた。前の大会では目いっぱい気持ちで出場したけれど、今回はレース全体をイメージしながら体の反応を確かめて走ることが出来た」と満足の笑顔。

今年も完走。最高齢の部坂さん

第1回大会から連続参加し「3回とも完走することができた」と最終走者でのゴールは、恵庭市の最高齢参加、部坂正義さん(73)。

「今年は足をけがしたり、病気になってしまっって、練習が足りなかった。無理かな、と思ったけれど、来てよかったよ。終わった時が楽しい」と息を弾ませました。

韓国から14人が初参加

「去年もレースに出たかったです。でも去年は航空機の手配が取れず、ようやく来ることができました。美しくきれいなコースで、素晴らしい」と話したのは、キル・チュンジェさん(50)。「コースにアップダウンがあるので、選手同士の差が自然についてよかった」と絶賛。



韓国から参加女性でトップゴールのキルさん(左)とパク・ジルジャさん(右)